島守小

主体的に学び合う子どもの育成

～聞く力の育成を目指した指導の工夫～　（３年計画の１年次）

校長　久保　慶喜

１　研究主題について

昨年度は、研究主題を「主体的に学び合う子どもの育成」として研究実践を通して研究を進め、次のような成果が得られた。

① 「島守スタンダード」に全校で取り組んだ結果、複式学級、単式学級どちらでも発達段階に応じて学習リーダーを全員が経験することができた。また、振り返りを記入することで自分の学びを客観的に見ようとする習慣が定着してきた。

② 同時間接指導を取り入れたことにより、自力解決の時間を確保するとともに、教師が子どものつまずきに気づいて個別指導にあたることができたため、どの児童も意欲をもって次の練り合いの活動に関わっていくことができた。

一方、課題として次のようなことが挙げられた。

① 課題把握の場面だけではなく、児童が終末時まで問題解決に向けて深く考えていくことができるような手立てや発問、板書の工夫を図る必要がある。

② 振り返りを書くことはできるようになっているが、その内容に個人差が出たり、次の授業に生かし切れていなかったりする側面が見られるようになってきた。内容の充実をさらに図るためにも、自分の考えの変容を意識できるような授業展開の工夫が必要である。

そこで、今年度は主体的な学びをより確かな学力につなげていくために聞く力の育成や授業展開の工夫、振り返りの生かし方について研究していく。昨年度、間接指導時における学習の進め方や振り返りの観点を「島守スタンダード」という形にまとめ、研究を行ってきた。今年度はこの「島守スタンダード」に聞き手の姿を追加し、相手の話をしっかりと聞く力を身に付けさせていく。そのために、授業展開において教師が聞く視点を与え、聞いた内容を自分なりに解釈する場を設定する。また、自分の意見を表明することができた児童を認め、安心した居場所づくりに努める。こうすることで、子どもの学習に対する主体性が育まれると考える。そこで、今年度は相手の話をしっかりと聞き、学習の振り返りを充実させることにより、確かな学力の定着を目指す。

以上のことから、本主題を設定した。

２　研究のねらい

主体的に学び合う子どもを育成するために、相手の話を聞き、自分なりに解釈しながら考えることができる学習指導のあり方を各教科の授業実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

各教科の授業において、「島守スタンダード」に則った聞き方や振り返りの仕方などの基礎的・基本的な学び方を身に付けさせ、互いに考えを解釈する場を取り入れた授業展開の工夫をすることにより、主体的に学び合う子どもを育成することができる。

４　研究内容

(1)　自分の考えを確実にもつための基礎的・基本的な学習指導のあり方

ア　島守スタンダードに則った授業の充実（聞く）

イ　学習リーダー、フォロワーの育成

ウ　同時間接指導を取り入れた授業の工夫

(2)　自分の考えを深めることのできる手立ての工夫

ア　振り返りの内容の充実と活用

イ　問題解決的な学習を進めるための教師のはたらきかけ

ウ　主体的に問題解決を図るための一人一台端末

5　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	授業の概要
5	３１	第１回授業研究 第１学年　授業者：中川原　友美 題材名　１学年『やぶいた　かたちから　うまれたよ』
7	１２	第２回授業研究 第３・４学年　授業者：田名部　純一 題材名　３学年『ぼうグラフ』　　４学年『小数のたし算・ひき算』
9	２０	第３回授業研究 第５・６学年　授業者：佐々木　耕造 題材名　５学年『分数（１）』　　６学年『比とその利用』
１２	6	第４回授業研究 第２学年　授業者：須藤　有祐美 題材名　２学年『モムンとへーテ』

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要等
7	１９	島守の歴史を知る講話 講師　八戸市博物館　古里　淳　様
8	３０	器械運動に関する実技研修 講師　島守小学校講師　佐々木　耕造　先生
9	２７	特別支援に関する研修講座 講師　こども支援センター　指導主事　三浦　祐子　様

6　研究の成果

(1) これまでの「島守スタンダード」に「聞く」という視点を加え、共通理解を図り全校で取り組んだ結果、最後までしっかり話を聞くことやうなずきながら話を聞くこと、相手を見つめて話を聞くことができた。また、振り返りを書く習慣が定着してきた。さらにその振り返りをさらに活用することで次の学習への意欲を高めることができた。

(2) 同時間接指導を取り入れたことにより、両学年を客観的に見ることができ、進度を確認するとともにつまずいている児童への個別指導にあてることができた。

7　今後の課題

(1) 相手の話を聞くことができるようになってきた。その聞いたことをもとに解釈し、自分の考えをしっかり相手に伝えることができるような指導や友達同士で助け合えるようなフォロワーの育成にも努めていく。「島守スタンダード」に「聞く」だけでなく、「伝える」という視点も取り入れ、全校で取り組む必要がある。

(2) 基礎基本の定着を図るために一人一台端末を活用してきた。児童がさらに問題解決に向けて、一人一台端末を使用できるような授業展開の工夫を図る必要がある。

（記入者　須藤　有祐美）